

保全活動・環境創造型農業のための 技術開発と実践

宮城県：ナマズのがっこう

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

環境保全活動や環境創造型農業の推進、田んぼの学校を通した環境教育等を企画・実践・推進・研究すること

【経緯】

水質汚染や外来種の増加、事業に伴う用排水路の分離等によって、水田を生息場所としている生きものが減少したことをきっかけに農家、地域住民、土地改良区の職員、企業が集まりナマズのがっこうを結成し、農業と自然環境の共生を図る取組が開始された。



魚道での交流の様子

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】小規模水田魚道、V型水路

【活用した事業等】経営体育成基盤整備事業（飯島地区）

【保全対象生物】ゼニタナゴ、シナイモツゴ、メダカ、ナマズ、ニホンアカガエル

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 水田魚道の設置、補修

①県内に13基設置

- ・水田魚道（千鳥X型）を設置し、遡上調査や補修作業を実施

2. 田んぼの生きもの調査の実施

①田んぼの生きもの調査を実施

- ・平成15年度～20年度、21年度以降は地元農地水環境保全会が同様の調査を継続中

3. 地域や都市部の住民との交流

①観察会、勉強会等の実施

- ・ビオトープを作り、小学生と生きもの調査や農作業体験を実施

4. 栽培技術の確立

①飯島地区内のほ場（約4ha）で実施

- ・冬期湛水、不耕起、無農薬、無化学肥料水稻栽培の技術開発を実施

5. その他の活動

①各種イベントなどへの参加

②外来種の駆除



環境保全施設（V型水路）



冬期湛水

○継続した活動でこんな効果が！！



水路での魚調査

■小規模水田魚道の開発

・「波付のU型」と「波付の丸型」の既製品を利用した水田魚道の遡上効果が良好で、安価な設置が可能との結果が得られている。

■ゼニタナゴの稚魚の生息が確認

・オオクチバス駆除活動を継続実施し、伊豆沼、内沼のオオクチバスの減少に貢献している。平成27年には、内沼でゼニタナゴの稚魚の生息が確認されている。

○課題・苦労した点

■活動に対する人員不足

・活動に協力してもらえる人員不足が課題として挙がっていた。

■汎用性があり安価な魚道の導入

・水田魚道の普及のためには、設置場所の汎用性、人力施工が可能、安価などの要件をクリアする必要があった。

○工夫した点

■他団体との連携

・ため池の池干しによるオオクチバス駆除は地元農地水環境保全活動団体、水利組合、宮城大学自然研究部と連携して活動する。

■技術的な工夫

・既製品を利用するとともに、設置場所がほ場整備完了地区、新規にほ場整備工事のいずれでも設置が可能な工法を開発した。

○活動の特徴！！

■経済的負担を技術的な工夫で軽減

・安価で汎用性がある魚道を開発・導入したことで、複数個所での設置が実現している。また、同様の活動を実施している地区に指導なども行っている。



○団体の概要は？

- ・平成15年度に設立し、活動エリアは宮城県の伊豆沼・内沼および伊豆沼・内沼上流域と周辺水田となっている。
- ・任意団体であり、活動人数は約30名。
- ・年間運営費（平成27年度）は補助金67%、会費20%、寄付13%となっている。

